

平成25年12月環境経済観測調査(中国四国版)

概況

環境省中国四国地方環境事務所では、環境ビジネスに焦点を当てた経済動向調査として平成22年12月から全国的に実施されている「環境経済観測調査」の平成25年12月調査結果を活用し、今般、中国四国地域（鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県及び高知県）に本社を持つ企業の環境ビジネス動向に特化した調査結果を取りまとめました。主な結果は以下のとおりです。

- ① 中国四国地域の民間企業が我が国で発展していると考える環境ビジネスについては、現在では「省エネルギー自動車」を挙げる割合が高く、ついで「大気汚染防止用装置・施設」、「太陽光発電システム（関連機器製造）」の順となり、全国と同様の結果であった。半年先においても、上位3分野は現在と同様であるが10年先では、「再生可能エネルギー」（太陽光発電を除く。以下同じ）を挙げる割合が最も高く、ついで「大気汚染防止用装置・施設」、「省エネルギー自動車」の順となっている。
- ② 中国四国地域の回答企業のうち、今後新たに環境ビジネスを実施したいと回答した企業の割合は7.6%となり、回答企業356社のうち27社が新規環境ビジネスについて実施意向を示した。また、現在、環境ビジネスを実施していない企業では、今後実施したいとする割合は6.8%にとどまったが、既に実施している企業においては、11.5%が新たな環境ビジネス分野への参入を志向していると回答した。
- ③ 中国四国地域の環境ビジネスの業況DIは18であり、「良い」と考える企業の割合が「悪い」と考える企業の割合を上回った。なお、全国調査における環境ビジネスの業況DI「17」を上回った。また、全ビジネス（環境ビジネス未実施企業を含む。以下同じ。）の業況DIは「4」となっており、環境ビジネスの業況はこれを大きく上回った。
- ④ 「国内需給」、「研究開発費」、「設備規模」、「人員体制」及び「海外販路の拡大意向」の各項目において、中国四国地域の企業における環境ビジネスDIは全ビジネスのDIを総じて上回った。
- ⑤ 環境ビジネス分類別に見ると、業況については全般的に上昇もしくは横ばい傾向であることが示されている。中でも環境汚染防止関連のビジネスについては全般的に上昇傾向が示され、特に「研究開発費」、「設備規模」及び「人員体制」への期待感が示された結果となった。

平成26年2月28日

環境省中国四国地方環境事務所

【問い合わせ】環境省 中国四国地方環境事務所 環境対策課

TEL : 086-223-1581

目 次

1. 調査の概要	1
2. 調査結果の概要	2
参考 調査票	16

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、全国地域を対象に実施されている環境経済観測調査(以下、「全国調査」という。)を活用し、中国四国地域の民間企業の回答を抽出することにより、中国四国地域の産業全体における環境ビジネスに対する認識や取り組み状況を把握し、全国データ等とも比較しつつ、中国四国地域における環境ビジネス振興策の企画・立案の基礎資料として活用していくことを目的とする。併せて、環境ビジネスの市場における認知度向上も視野に入れて調査結果を公表することにより、環境ビジネスの発展に資することも目的としている。

(2) 調査期間

平成25年11月18日(月)～平成25年12月27日(金) 基準時点は、回答時点。

(3) 調査方法

平成25年12月の全国調査のデータより、中国四国地域のデータのみを抽出し、同様の分析を実施。なお、環境ビジネスの分類としては、下記4大項目、34小分類からなる一覧からの回答を求めた。詳細は、巻末の調査票、別冊及び全国調査を参照のこと。

- A 環境汚染防止 (12小分類) 、 B 地球温暖化対策 (11小分類)
- C 廃棄物処理・資源有効利用 (8小分類) 、 D 自然環境保全 (3小分類)

(4) 中国四国地域の調査対象

中国四国地域の資本金2,000万円以上の民間企業のうち、資本金、業種別の層化無作為抽出法により選定された762社。有効回答数363社、有効回答率47.6%。

2. 調査結果の概要

(1) 我が国の環境ビジネス（中国四国）

①我が国の環境ビジネスの業況（中国四国）

現在、半年先、10年先の各時点における環境ビジネスの業況について、中国四国地域と全国のデータとを比較整理した。

表1 我が国の環境ビジネスの業況（中国四国）

	現在	半年後	10年先
中四国全体 (前回調査)	20 (12)	21 (18)	42 (47)
全国版	25	28	51

(DI:「良い」-「悪い」、%ポイント)

- 環境ビジネスの業況について、中国四国地域で「良い」と回答した企業数が「悪い」と回答した企業数をすべての項目において上回った。
- 「現在」、「半年先」において、いずれも前回調査のDIを上回った。
- また、将来になるほど環境ビジネスの業況が「良い」と考える企業の割合が高まる傾向にあった。

②我が国で発展していると考える環境ビジネス（中国四国）

我が国の環境ビジネスのうち、現在発展していると考えるビジネス、今後（半年先、10年先）発展が期待できると考えるビジネスについて、環境ビジネス分類から回答を求めた。

表2 我が国で発展していると考える環境ビジネス 上位5ビジネス（中国四国）

	現在	%	半年先	%	10年先	%
1 省エネルギー自動車	22.6 (25.0)	1 省エネルギー自動車	16.8 (22.3)	1 再生可能エネルギー	30.0 (30.5)	
2 大気汚染防止用装置・施設	22.2 (20.7)	2 大気汚染防止用装置・施設	15.9 (14.0)	2 大気汚染防止用装置・施設	10.5 (10.3)	
3 太陽光発電システム（関連機器製造）	14.8 (12.3)	3 太陽光発電システム（関連機器製造）	13.6 (11.1)	3 省エネルギー自動車	9.5 (9.5)	
4 下水、排水処理用装置・施設	8.7 (9.5)	4 再生可能エネルギー	9.1 (12.4)	4 土壌、水質浄化用装置・施設 (地下水浄化を含む)	5.5 (4.8)	
5 再生可能エネルギー	7.8 (7.7)	5 下水、排水処理用装置・施設	6.8 (6.6)	5 その他の環境汚染防止製品・装置・施設	4.5 (4.4)	

- 中国四国地域の民間企業が我が国で発展していると考える環境ビジネスについては、現在では「省エネルギー自動車」を挙げる割合が高く、ついで「大気汚染防止用装置・施設」、「太陽光発電システム（関連機器製造）」の順となり、全国と同様の結果であった。半年先においても、上位3分野は現在と同様であるが10年先では、「再生可能エネルギー」を挙げる割合が最も高く、ついで「大気汚染

防止用装置・施設」、「省エネルギー自動車」の順となっている。

(2) 中国四国地域の回答企業が実施している環境ビジネス

①現在実施している環境ビジネス（中国四国）

現在、実施している環境ビジネスについて環境ビジネス分類から回答を求めた。複数実施している場合には、売上高に占める割合の順等、重視する順に上位3つまでの複数回答を得た。

(a) 環境ビジネス実施状況（中国四国）

表3 環境ビジネスの実施状況(中国四国)

(%)

	回答企業数 (社)	実施 している				実施 していない
			3つ(以上)	2つ	1つ	
中四国全体 (前回調査)	362 <347>	17.7 <16.7>	3.0 <2.3>	4.1 <4.9>	10.5 <9.5>	82.3 <83.3>
全国版	(4,860)	(20.3)	(3.8)	(4.4)	(12.2)	(79.7)

- 中国四国地域の回答企業のうち、環境ビジネスを実施している企業の割合は17.7%であり、全国値(20.3%)を下回る結果となった。

(b) 現在実施している環境ビジネス（中国四国）

表4 実施している環境ビジネス 上位5ビジネス(中国四国)

中四国版		%	全国版		%
1	再生可能エネルギー	17.2 (16.0)	1	再生可能エネルギー	16.0
1	太陽光発電システム(据付・メンテナンス等)	17.2 (11.2)	2	産業廃棄物処理	11.7
3	高効率給湯器	15.6 (8.9)	3	太陽光発電システム(据付・メンテナンス等)	11.2
3	産業廃棄物処理	15.6 (11.7)	4	高効率給湯器	8.9
5	その他の地球温暖化対策ビジネス	12.5 (8.0)	5	太陽光発電システム(関連機器製造)	8.4

(注) 括弧内は全国の値

- 中国四国地域で現在実施している環境ビジネスについては、「再生可能エネルギー」及び「太陽光発電システム(据付・メンテナンス等)」を挙げる割合が多く、「再生可能エネルギー」については全国と同様の結果(1位)であった。それについて「高効率給湯器」及び「産業廃棄物処理」を実施している企業が多く見られた。

②今後実施したいと考えている環境ビジネス（中国四国）

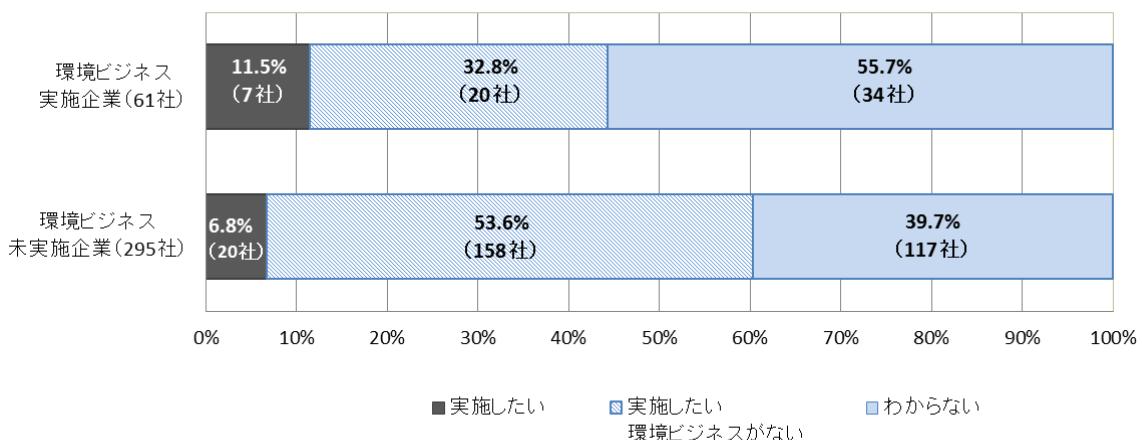
現在、実施していないが、今後行いたいと考えている環境ビジネスについて回答を求めた。

(a) 環境ビジネスの実施意向（中国四国）

表 5 環境ビジネスの実施意向(中国四国)

		回答企業数 (社)	実施したい				実施したい 環境ビジネス がない	わからない
				3つ(以上)	2つ	1つ		
全体	356	7.6		0.8	1.1	5.6	50.0	42.4
(前回調査)	<345>	<11.9>		<0.9>	<2.0>	<9.0>	<52.5>	<35.7>
全国版	(4,790)	(10.9)		(1.5)	(2.5)	(6.8)	(51.0)	(38.1)
うち 環境ビジネス実施企業	61	11.5		1.6	1.6	8.2	32.8	55.7
うち 環境ビジネス未実施企業	295	6.8		0.7	1.0	5.1	53.6	39.7

図1 環境ビジネスの実施の有無別の今後の実施意向



中国四国地域の回答企業356社のうち27社(7.6%)が、今後新たに環境ビジネスを実施したいと回答した。

- 現在、環境ビジネスを実施していない企業では、今後実施したいとする割合は6.8%にとどまったが、既に実施している企業においては、11.5%が新たな環境ビジネス分野への参入を志向していると回答した。

(b) 今後実施したいと考えている環境ビジネス（中国四国）

表6 実施したいと考えている環境ビジネス 上位5ビジネス中国四国)

中四国版		%	全国版		%
1 再生可能エネルギー	29.6 (26.9)	1 再生可能エネルギー		26.9	
2 リサイクル素材	18.5 (7.1)	2 スマートグリッド		11.9	
3 持続可能な農林漁業、緑化	14.8 (6.0)	3 その他の地球温暖化対策ビジネス		8.1	
4 下水、排水処理用装置・施設	7.4 (2.9)	4 太陽光発電システム(据付・メンテナンス等)		7.7	
4 太陽光発電システム(据付・メンテナンス等)	7.4 (7.7)	5 省エネルギー・コンサルティング等		7.3	
4 省エネルギー建築	7.4 (5.0)				

(注) 括弧内は全国の値

- 中国四国地域の企業が、今後、実施したいと考える環境ビジネスとしては、全国調査と同様、環境ビジネス分類のB地球温暖化対策を挙げる傾向にあり、特に「再生可能エネルギー」が全国と同様の結果(1位)であった。
- なお、全国の結果では圏外である「リサイクル素材」及び「持続可能な農林漁業、緑化」が中国四国地域において上位にランクインし、当該ビジネスの実施意向の高さが示された結果となった。

(参考)東北6県で今後行いたいと考えている環境ビジネス（全国集計からの引用）

東北6県で今後、新規展開および拡充したいビジネスについて最大3件まで回答を求めた。

表7 東北6県で実施したいと考えている環境ビジネス（業種別・本社所在地別）

全産業		%	製造業		%	非製造業		%
1	再生可能エネルギー	23.2	1	再生可能エネルギー	14.8	1	再生可能エネルギー	28.3
2	太陽光発電システム(据付・メンテナンス等)	10.7	2	その他の環境汚染防止製品・装置・施設	11.4	2	太陽光発電システム(据付・メンテナンス等)	14.5
3	土壤、水質浄化用装置・施設(地下水浄化を含む)	10.3	3	下水、排水処理用装置・施設	9.1	3	土壤、水質浄化用装置・施設(地下水浄化を含む)	12.4
4	省エネルギー建築	9.9	3	省エネルギー建築	9.1	4	スマートグリッド	11.0
5	スマートグリッド	8.2	5	土壤、水質浄化用装置・施設(地下水浄化を含む)	6.8	5	省エネルギー建築	10.3

(回答数、カッコ内は全環境ビジネスにしめる割合)

	全国	本社所在地							
		北海道	東北	関東	中部	関西	中四国	九州	
回答企業合計(複数回答有)	233	—	5	30	133	15	35	5	10
全環境ビジネス	388	(100%)	10	43	239	26	48	8	14
再生可能エネルギー	54	(14%)	—	10	35	2	4	1	2
太陽光発電システム(据付・メンテナンス等)	25	(6%)	1	4	18	—	1	—	1
土壤、水質浄化用装置・施設(地下水浄化を含む)	24	(6%)	1	3	15	1	3	1	—
省エネルギー建築	23	(6%)	—	1	14	4	3	1	—
スマートグリッド	19	(5%)	1	1	14	1	2	—	—
下水、排水処理用装置・施設	18	(5%)	1	1	8	2	5	—	1
土壤、水質浄化サービス(地下水浄化を含む)	17	(4%)	—	1	13	1	1	—	1
産業廃棄物処理	17	(4%)	1	2	11	—	2	—	1
その他の環境汚染防止製品・装置・施設	16	(4%)	—	1	10	1	4	—	—
持続可能な農林漁業、緑化	14	(4%)	—	1	8	2	3	—	—
蓄電池	13	(3%)	—	—	9	—	1	1	2
その他	148	(38%)	5	18	84	12	19	4	6

- 東北6県で新規展開又は拡充をしたいと考えている環境ビジネスとしては、前回調査同様、「再生可能エネルギー」や「太陽光発電システム」(据付・メンテナンス等)等の地球温暖化対策分野に関するビジネスが上位となった。また、「土壤、水質浄化装置・施設(地下水浄化を含む)」が第3位に入り、全国での今後実施したいと考えている環境ビジネス(表7)の上位として挙げられているものとは異なるビジネスも上位に入った。
- 東北6県で環境ビジネスを新規展開又は拡充をしたいと考えている企業は233社と、有効回答社数全体(4,860)の4.8%となっている。

③環境ビジネスの業況等（中国四国）

以下、(a) 業況から(i) 海外販路拡大の意向までの項目については、環境ビジネスを実施中の企業に対して、当該環境ビジネスの状況を尋ね、全回答企業の会社全体（「全ビジネス」）の状況と比較した。なお、「現在」は半年前との、「半年先」及び「10年先」は、現在との比較で質問した。

また、業況等、日本銀行広島支店の「企業短期経済観測調査（中国地区）」及び日本銀行高松支店の「企業短期経済観測調査（四国地区）」において同種の調査項目があるものについては、全産業（金融機関を除く。）又は製造業の該当DIを参考まで併記した。

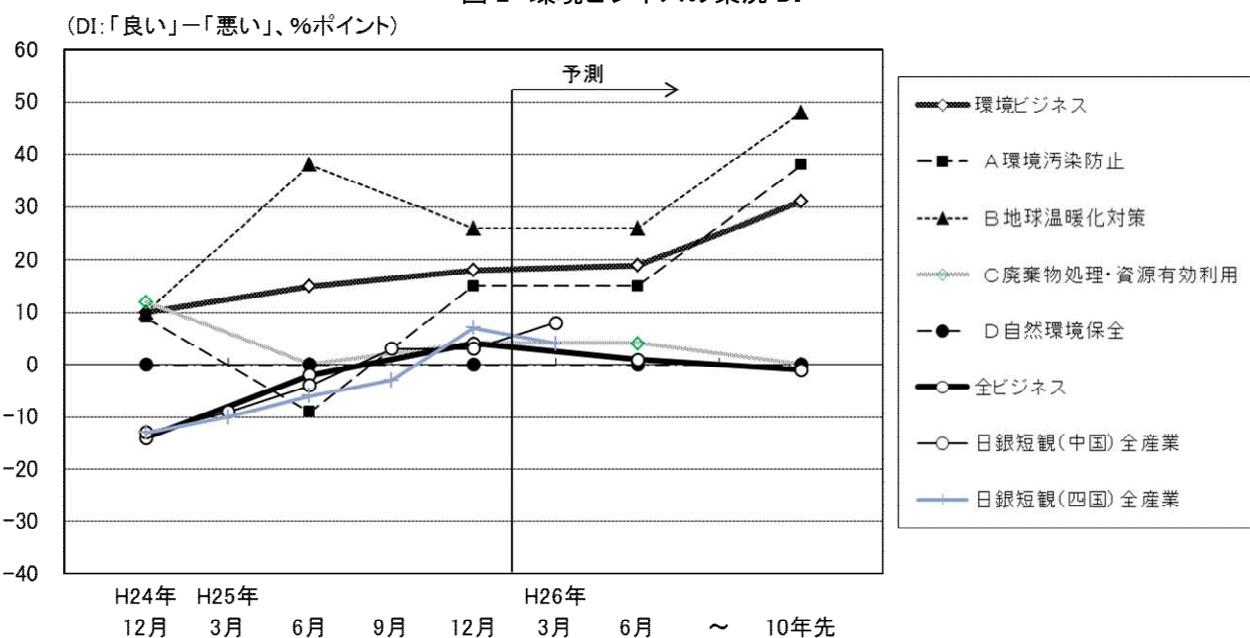
(a) 業況

表 8 業況 DI

	H24年 12月	H25年 3月	6月	9月	(今回) 12月	→ 予測			
						H26年 3月	6月	~	10年先
環境ビジネス (半年前ににおける予測)	10 (9) <15>		15 (15) <16>		18 (17) <21>		19 (19)		31 (25) <29>
A環境汚染防止	9 (4)		-9 (3)		15 (10)		15 (14)		38 (18)
B地球温暖化対策	10 (18)		38 (26)		26 (27)		26 (27)		48 (36)
C廃棄物処理・資源有効利用	12 (1)		0 (7)		4 (8)		4 (6)		0 (7)
D自然環境保全	*** (-10)		*** (11)		*** (4)		*** (8)		*** (27)
全ビジネス (半年前ににおける予測)	-14 (-9) <-8>		-2 (1) <-13>		4 (9) <2>		1 (10)		-1 (10) <0>
うち 環境ビジネス実施企業	5 (2)		2 (10)		6 (22)		10 (20)		16 (22)
うち 環境ビジネス未実施企業	-18 (-11)		-3 (-1)		3 (6)		0 (8)		-5 (8)
日銀短観（中国）全産業	-13	-9	-4	3	3	8			
日銀短観（四国）全産業	-13	-10	-6	-3	7	4			

- (注)
- 1 日銀短観（中国及び四国）の全産業。
 - 2 括弧内は全国の値。以下(i)まで同様。
 - 3 H26年3月は先行きの数値。以下(i)まで同様。
 - 4 「D 自然環境保全」は、回答数が10未満のため、DIの表示を省いた。以下(g)まで同様。
 - 5 日銀短観（中国及び四国）の平成26年3月は平成25年12月調査における先行き予測。以下(i)まで同様。

図 2 環境ビジネスの業況 DI



- 中国四国地域の環境ビジネスの業況DIは「18」であり、「良い」と考える企業の割合が「悪い」と考える企業の割合を上回った。なお、全国調査における環境ビジネスの業況DI「17」を上回った。また、全ビジネス(環境ビジネス未実施企業を含む。以下同じ。)の業況DIは4となっており、環境ビジネスの業況はこれを大きく上回った。
- 環境ビジネス分類の中では、現在において、A環境汚染防止の業況DI「15」が全国調査「10」を上回ってプラスとなっている一方、B地球温暖化対策「26」及びC廃棄物処理・資源有効利用「4」については、全国調査「それぞれDI27及びDI8」を下回る結果となった。
- 先行きをみると、環境ビジネスの業況は上昇傾向を示しており、A環境汚染防止及びB地球温暖化対策では、10年先において全国調査を上回る結果となった。

(b) 国内需給

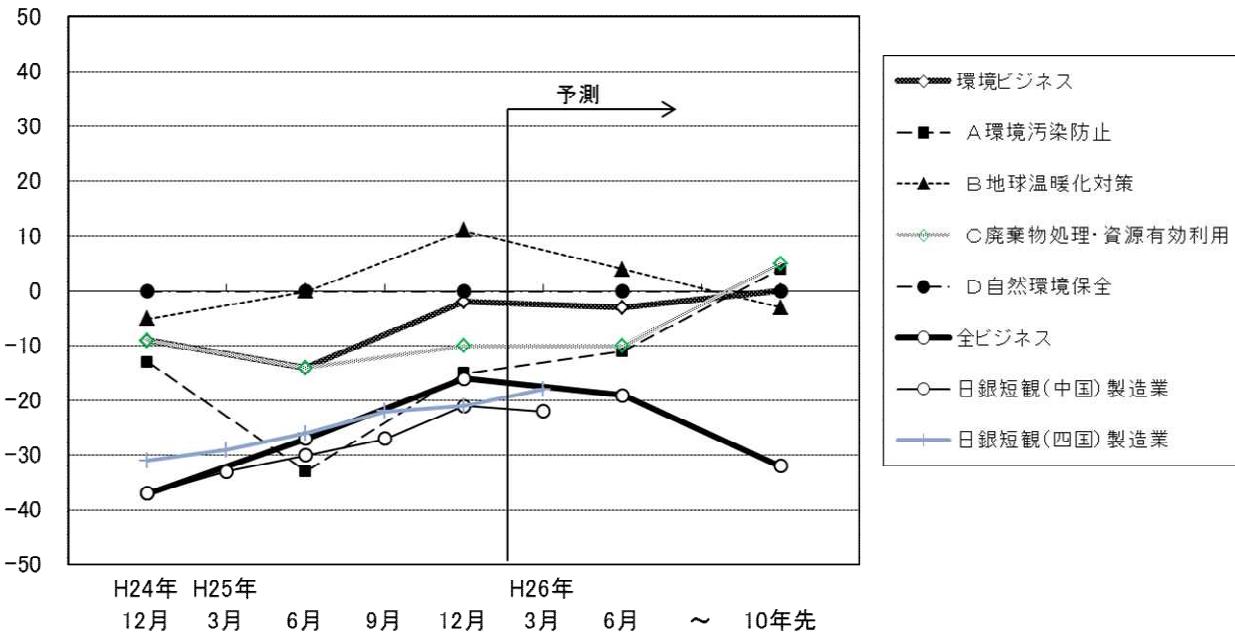
表9 国内需給DI

	H24年 12月	H25年 3月	6月	9月	(今回) 12月	H26年 3月	→ 予測		
							6月	~	10年先
環境ビジネス (半年前における予測)	-9 (-10) <-14>		-14 (-8) <-7>		-2 (-3) <-10>		-3 (-4)		0 (-7) <-5>
A環境汚染防止	-13 (-14)		-33 (-20)		-15 (-9)		-11 (-9)		4 (-7)
B地球温暖化対策	-5 (-5)		0 (-1)		11 (3)		4 (0)		-3 (-5)
C廃棄物処理・資源有効利用	-9 (-11)		-14 (-11)		-10 (-6)		-10 (-9)		5 (-11)
D自然環境保全	*** (-30)		*** (-3)		*** (-17)		*** (-12)		*** (6)
全ビジネス (半年前における予測)	-37 (-34) <-32>		-27 (-25) <-35>		-16 (-15) <-26>		-19 (-17)		-32 (-24) <-29>
うち 環境ビジネス実施企業	-27 (-28)		-31 (-21)		-15 (-8)		-14 (-11)		-13 (-21)
うち 環境ビジネス未実施企業	-39 (-35)		-26 (-26)		-15 (-17)		-20 (-18)		-36 (-25)
日銀短観(中国)製造業	-37	-33	-30	-27	-21	-22			
日銀短観(四国)製造業	-31	-29	-26	-22	-21	-18			

(注) 日銀短観(中国及び四国)の製造業。

図3 国内需給DI

(DI:「需要超過」-「供給超過」、%ポイント)



- 環境ビジネスの国内需給DIは「-2」であり、「需要超過」と回答した企業の割合が「供給超過」と回答した企業の割合を下回った。なお、全国調査では、環境ビジネスの国内需給DIは「-3」であり、全国調査を上回る結果となった。また、全ビジネスの国内需給DIは「-16」となっており、環境ビジネスの国内需給DI「-2」と比較すると、環境ビジネスにおける国内需給への期待感が示された。
- 環境ビジネス分類の中では、現在においては、A環境汚染防止「-15」及びC廃棄物処理・資源有効利用「-10」について、供給超過であると見られていることが示された。
- 先行きは、環境ビジネスの国内需給は、半年先、10年先にかけて緩やかな改善傾向を示しているが、B地球温暖化対策は悪化傾向にあると見られている。

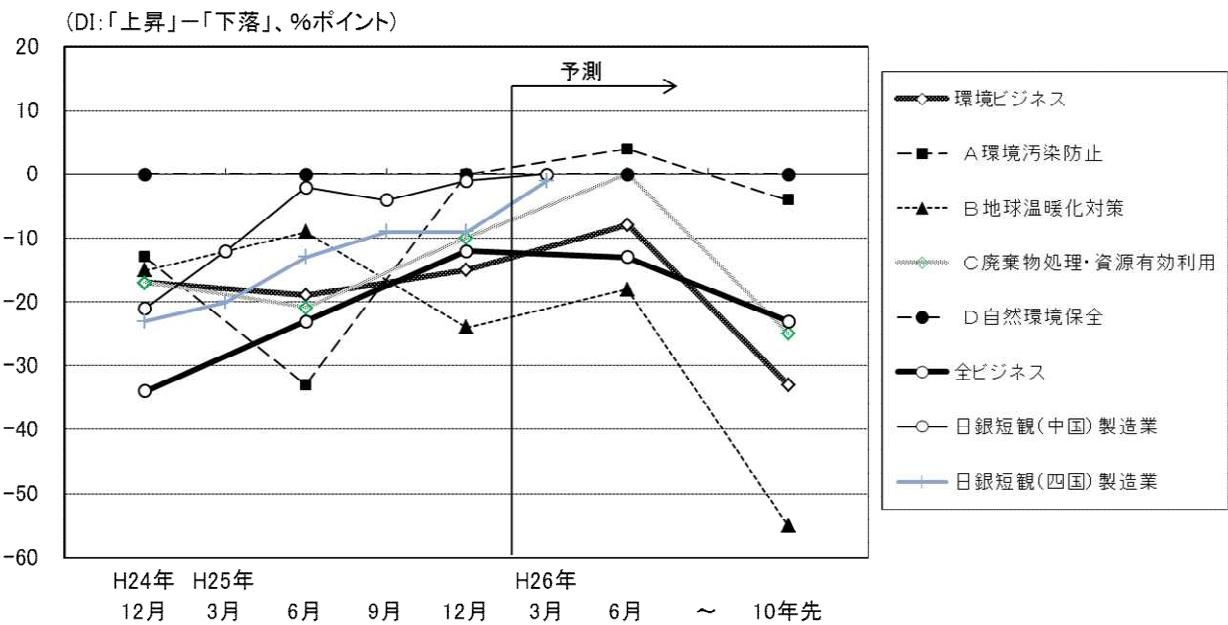
(c) 提供価格

表10 提供価格DI

	H24年 12月	H25年 3月	6月	9月	(今回) 12月	→ 予測			
						H26年 3月	6月	~	10年先
環境ビジネス (半年前における予測)	-17 (-16) <-20>		-19 (-14) <-22>		-15 (-11) <-11>		-8 (-12)		-33 (-27) <-25>
A環境汚染防止	-13 (-21)		-33 (-19)		0 (-12)		4 (-10)		-4 (-18)
B地球温暖化対策	-15 (-12)		-9 (-13)		-24 (-12)		-18 (-15)		-55 (-39)
C廃棄物処理・資源有効利用	-17 (-19)		-21 (-14)		-10 (-14)		0 (-11)		-25 (-13)
D自然環境保全	*** (-20)		*** (-4)		*** (-8)		*** (-4)		*** (8)
全ビジネス (半年前における予測)	-34 (-30) <-31>		-23 (-18) <-32>		-12 (-13) <-19>		-13 (-9)		-23 (-17) <-20>
うち 環境ビジネス実施企業	-27 (-23)		-15 (-12)		-13 (-9)		-4 (-7)		-26 (-18)
うち 環境ビジネス未実施企業	-34 (-32)		-23 (-20)		-11 (-13)		-14 (-10)		-21 (-16)
日銀短観(中国)製造業	-21	-12	-2	-4	-1	0			
日銀短観(四国)製造業	-23	-20	-13	-9	-9	-1			

(注) 日銀短観(中国及び四国)の製造業。

図4 提供価格DI



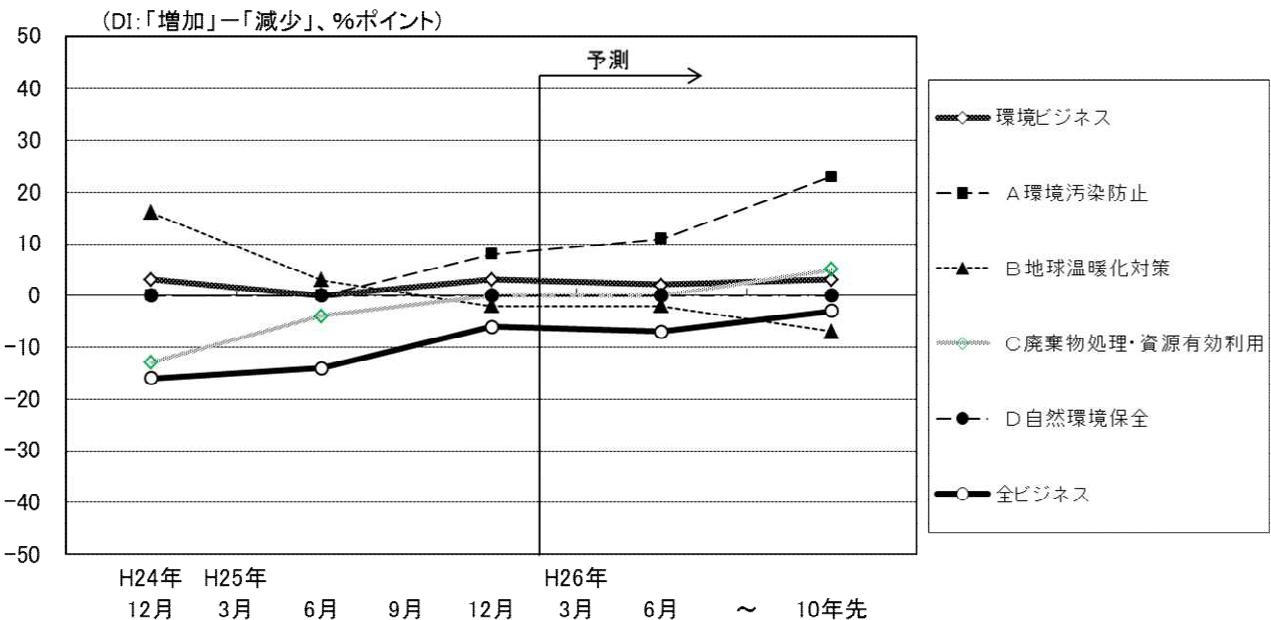
- 環境ビジネスの提供価格DIは「-15」と、「上昇」と回答した企業の割合が「下落」と回答した企業の割合を下回っており、全国調査「-11」と同様に環境ビジネスの提供価格DIはマイナスとなっている。
- 環境ビジネス分類の中では、A環境汚染防止の提供価格DI「0」が全国値「-12」を大きく上回る結果となった。
- 先行きは、半年先において改善への期待が見られるものの、10年先において下落傾向が強まると見られている。

(d) 研究開発費

表11 研究開発費DI

	H24年 12月	H25年 3月	6月	9月	(今回) 12月	→ 予測			
						H26年 3月	6月	~	10年先
環境ビジネス (半年前における予測)	3 (0) <-1>		0 (-3) <5>		3 (1) <0>		2 (1)		3 (3) <10>
A環境汚染防止	0 (2)		0 (-7)		8 (-2)		11 (1)		23 (5)
B地球温暖化対策	16 (8)		3 (4)		-2 (4)		-2 (5)		-7 (3)
C廃棄物処理・資源有効利用	-13 (-13)		-4 (-12)		0 (-7)		0 (-6)		5 (-1)
D自然環境保全	*** (-23)		*** (5)		*** (0)		*** (-2)		*** (10)
全ビジネス (半年前における予測)	-12 (-14) <-16>		-14 (-9) <-12>		-6 (-4) <-11>		-7 (0)		-3 (6) <-1>
うち 環境ビジネス実施企業	-9 (-5)		-16 (-2)		-3 (0)		0 (5)		5 (13)
うち 環境ビジネス未実施企業	-14 (-15)		-13 (-10)		-7 (-4)		-9 (-1)		-6 (3)

図5 研究開発費DI



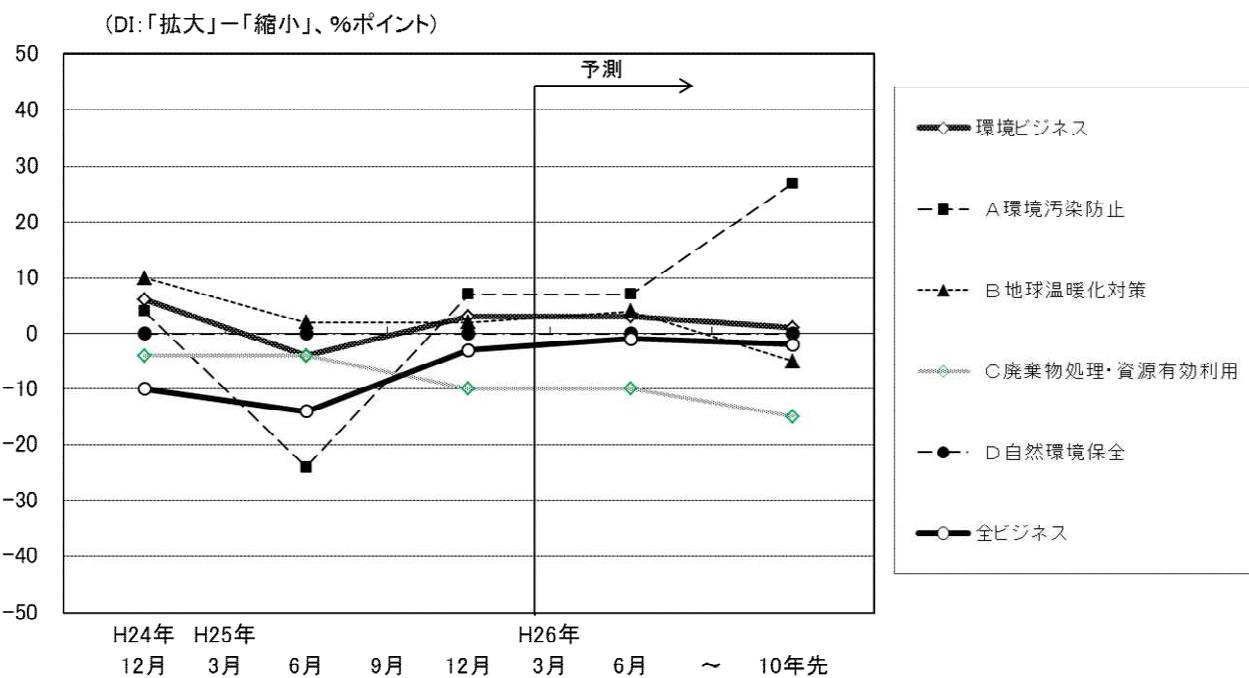
- 環境ビジネスの研究開発費DIは「3」と、「増加」と回答した企業の割合が「減少」と回答した企業の割合を上回り、全国調査「1」と比べても上回る結果となった。なお、全ビジネスの研究開発費DI「-6」と比較しても、環境ビジネスにおける研究開発活動は活発と考えられる。
- 環境ビジネス分類の中では、A環境汚染防止「8」及びC廃棄物処理・資源有効利用「0」が全国値「それぞれ-2及び-7」を上回っている。
- 先行きは、環境ビジネス全体は横ばいであるが、A環境汚染防止及びC廃棄物処理・資源有効利用については、半年先、10年先にかけて改善されることが期待されている。

(e) 設備規模

表12 設備規模DI

	H24年 12月	H25年 3月	6月	9月	(今回) 12月	予測			
						H26年 3月	6月	~	10年先
環境ビジネス (半年前における予測)	6 (0) <1>		-4 (-2) <7>		3 (3) <-4>		3 (5)		1 (4) <7>
A環境汚染防止	4 (-3)		-24 (-8)		7 (0)		7 (2)		27 (1)
B地球温暖化対策	10 (7)		2 (3)		2 (8)		4 (9)		-5 (5)
C廃棄物処理・資源有効利用	-4 (-6)		-4 (-8)		-10 (-2)		-10 (-1)		-15 (4)
D自然環境保全	*** (-18)		*** (8)		*** (4)		*** (-2)		*** (17)
全ビジネス (半年前における予測)	-10 (-11) <-15>		-14 (-6) <-9>		-3 (-1) <-10>		-1 (2)		-2 (3) <-3>
うち 環境ビジネス実施企業	5 (-4)		-5 (0)		13 (6)		9 (10)		9 (9)
うち 環境ビジネス未実施企業	-14 (-14)		-15 (-8)		-6 (-3)		-3 (0)		-5 (2)

図6 設備規模DI



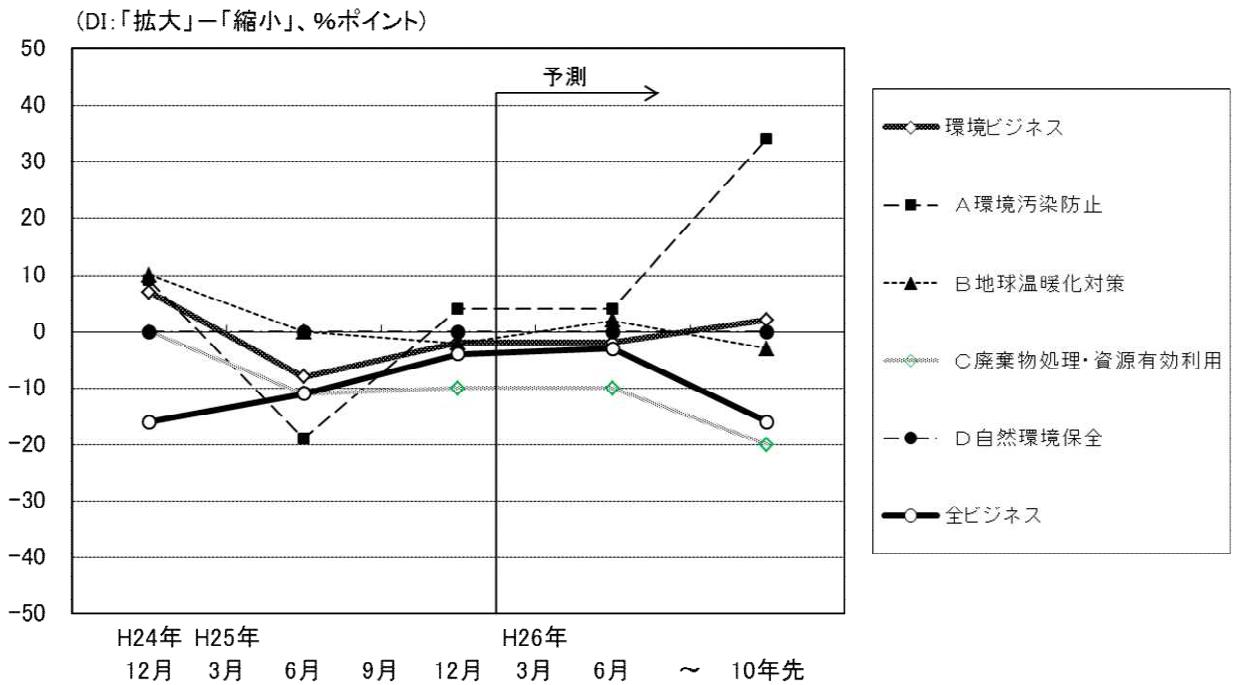
- 環境ビジネスの設備規模DIは「3」で、「拡大」と回答した企業の割合が「縮小」と回答した企業の割合を上回り、全ビジネスの設備規模DI「-3」と比較しても上回る結果となった。
- 環境ビジネス分類の中では、A環境汚染防止「7」及びB地球温暖化対策「2」ではプラスであるが、C廃棄物処理・資源有効利用「-10」についてはマイナスとなっており、全国調査「それぞれ0、8及び-2」と比べても低い結果となった。
- 先行きは、環境ビジネス全体では横ばいから下降傾向であるが、A環境汚染防止については上昇傾向を示しており、特に10年先においては、大幅な伸びを示しており、全国調査と比べても高い傾向にある。

(f) 人員体制

表13 人員体制DI

	H24年 12月	H25年 3月	6月	9月	(今回) 12月	→ 予測			
						H26年 3月	6月	~	10年先
環境ビジネス (半年前における予測)	7 (3) <0>		-8 (0) <6>		-2 (5) <-6>		-2 (6)		2 (5) <-2>
A環境汚染防止	9 (1)		-19 (-8)		4 (1)		4 (4)		34 (6)
B地球温暖化対策	10 (9)		0 (3)		-2 (8)		2 (9)		-3 (6)
C廃棄物処理・資源有効利用	0 (-5)		-11 (-1)		-10 (2)		-10 (3)		-20 (0)
D自然環境保全	*** (-13)		*** (10)		*** (2)		*** (2)		*** (17)
全ビジネス (半年前における予測)	-16 (-12) <-16>		-11 (-7) <-14>		-4 (-2) <-10>		-3 (1)		-16 (-3) <-14>
うち 環境ビジネス実施企業	-3 (-4)		-12 (-3)		1 (6)		5 (7)		-1 (5)
うち 環境ビジネス未実施企業	-18 (-14)		-10 (-8)		-6 (-4)		-5 (0)		-19 (-5)

図7 人員体制DI



- 環境ビジネスの人員体制DIは「-2」であり、「拡大」と回答した企業の割合が「縮小」と回答した企業の割合を下回っている。また、全ビジネスの人員体制DI「-4」と比較すると若干上回っているものの、全国調査「5」と比較すると下回る結果となった。
- 環境ビジネス分類の中では、A環境汚染防止「4」については全国調査「1」を上回る結果となったが、B地球温暖化対策「-2」及びC廃棄物処理・資源有効利用「-10」については全国調査「それぞれ8及び2」を大きく下回る結果となった。
- 先行きは、特に A 環境汚染防止の 10 年先において大幅な伸びを示しており、全国調査と比べても高い傾向にある。

(g) 資金繰り 「現在」のみ回答)

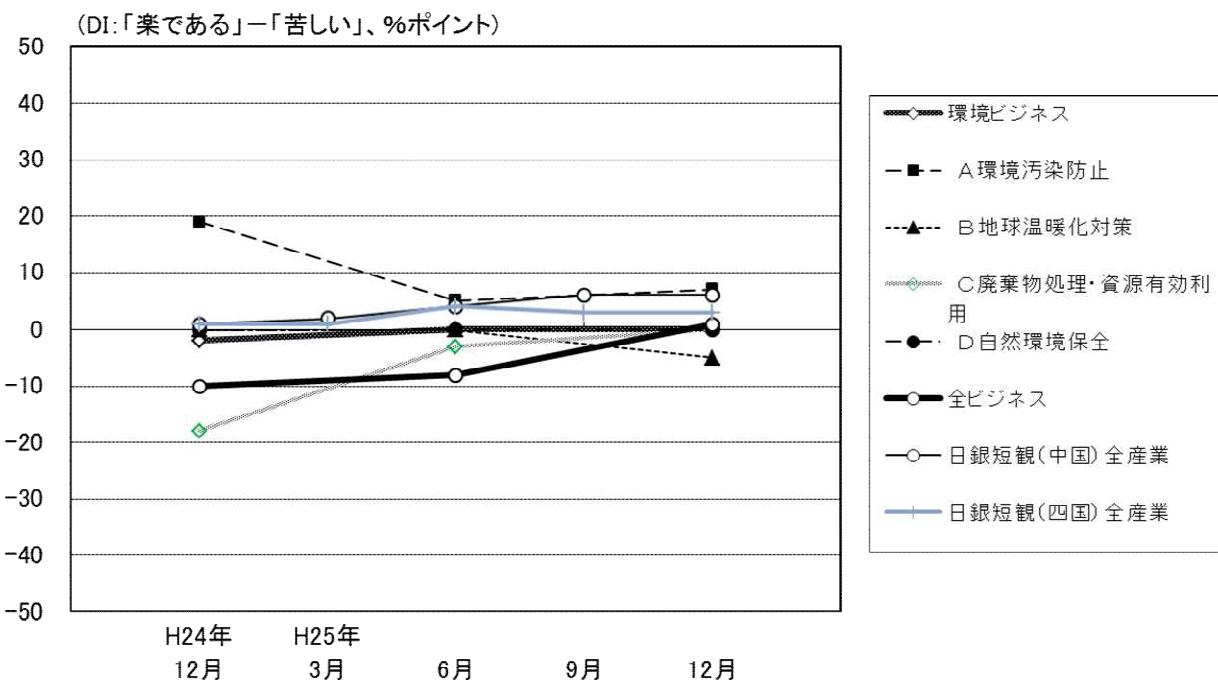
表14 資金繰りDI

(DI:「楽である」-「苦しい」、%ポイント)

	H24年 12月	H25年 3月	6月	9月	(今回) 12月
環境ビジネス	-2 (-4)		0 (-1)		0 (3)
A環境汚染防止	19 (-2)		5 (-2)		7 (5)
B地球温暖化対策	0 (-2)		0 (2)		-5 (1)
C廃棄物処理・資源有効利用	-18 (-8)		-3 (-5)		0 (1)
D自然環境保全	*** (-11)		*** (-4)		*** (-2)
全ビジネス	-10 (-7)		-8 (-3)		1 (0)
日銀短観(中国)全産業	1	2	4	6	6
日銀短観(四国)全産業	1	1	4	3	3

(注) 日銀短観(中国及び四国)の全産業。

図8 資金繰りDI



- 環境ビジネスの資金繰りDIは「0」であり、「楽である」と回答した企業の割合と「苦しい」と回答した企業の割合と同じとなった。
- 環境ビジネス分類の中では、他の分類に比べ、特にA環境汚染防止の資金繰りDI「7」が全国値「5」よりも高く、プラスになっている。一方で、B地球温暖化対策「-5」は全国調査「1」を下回り苦しい状況が見られる。

(h) 海外需給 (海外市場向けの事業を実施している企業のみ回答)

「(h) 海外需給」については、有効回答数が少ないので、分析を省略した。

(i) 海外販路拡大の意向 (海外市場向けの事業を実施していない企業のみ回答)

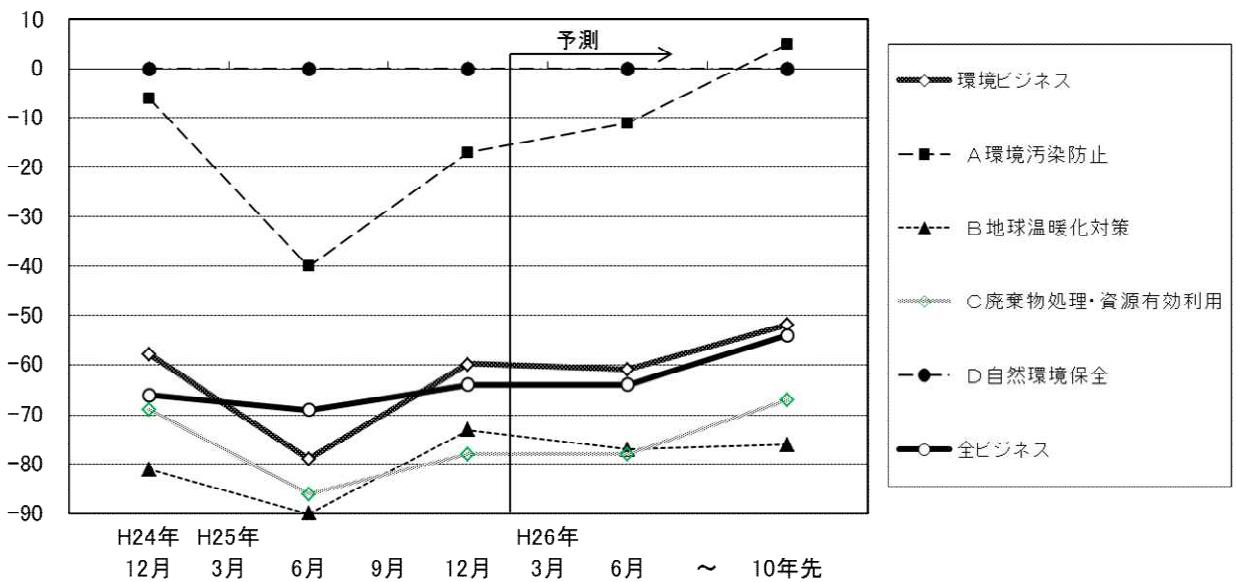
表15 海外販路の拡大意向DI

(DI:「販路拡大意向あり」-「販路拡大意向なし」、%ポイント)

	H24年 12月	H25年 3月	6月	9月	(今回) 12月	H26年 3月	6月	~	10年先
	→ 予測								
環境ビジネス (半年前における予測)	-58 (-49) <-76>		-79 (-50) <-58>		-60 (-51) <-77>		-61 (-50)		-52 (-36) <-63>
A環境汚染防止	-6 (-36)		-40 (-44)		-17 (-37)		-11 (-36)		5 (-18)
B地球温暖化対策	-81 (-53)		-90 (-54)		-73 (-54)		-77 (-52)		-76 (-40)
C廃棄物処理・資源有効利用	-69 (-56)		-86 (-51)		-78 (-60)		-78 (-59)		-67 (-46)
D自然環境保全	*** (-41)		*** (-62)		*** (-50)		*** (-50)		*** (-42)
全ビジネス (半年前における予測)	-66 (-54) <-61>		-69 (-57) <-65>		-64 (-57) <-67>		-64 (-55)		-54 (-41) <-55>
うち 環境ビジネス実施企業	-53 (-48)		-63 (-51)		-45 (-52)		-48 (-51)		-38 (-34)
うち 環境ビジネス未実施企業	-70 (-56)		-70 (-58)		-69 (-58)		-68 (-56)		-58 (-43)

図9 海外販路の拡大意向DI

(DI:「販路拡大意向あり」-「販路拡大意向なし」、%ポイント)



- 現在、海外市場向けの事業を実施していない企業においては、環境ビジネスの海外販路拡大意向DIは「-60」であり、「販路拡大意向なし」と回答した企業の割合が「販路拡大意向あり」と回答した企業の割合を大きく上回った。なお、海外販路拡大DIは、現在海外向け事業を実施していない企業に限った調査項目であり、業種の性質や企業規模等から海外展開余地が限られる企業が含まれることから、DIは大幅なマイナスとなる傾向がある。
- 環境ビジネス分類の中では、A環境汚染防止について、今回及び先行きとも全国調査を上回る結果となり、特に10年先において改善すると見られている。



環境省「平成25年12月環境経済観測調査」



本調査は日銀短観に準じて、年2回、環境に関する分野の景況感を把握・公表している重要な調査になります。ご協力頂きますようお願い申し上げます。
環境ビジネスを実施されていない場合も可能な範囲でご記入下さい。

[提出期限 平成25年12月20日]

インターネット（オンライン回答または電子ファイルのメール送付）での回答も受け付けております。詳細は「環境経済情報ポータルサイト」をご覧下さい。
http://www.env.go.jp/policy/keizai_portal

調査票番号		
東京都〇〇区 △△ 丁目×× ～～ 株式会社 御中 (送付先の住所・会社名を印刷)		
資金	1000百万円	主業業種コード
1		

前回回答もしくは総務省データベースより転載、
今回回答の参考してください。
※宛先に修正がございましたら、赤字で訂正ください。

ご回答日			資金	売上高	主業業種
月	日	年	万円	万円	別冊の「1. 主業業種一覧」から選択の上、下記の番号に○を付けてください。
売上高(もしくは営業収益) 把握している販路の構造(運送)の 種別(運送の上位まで)を記入ください。			万円	万円	
主業業種					
1 建設業 2 食料、繊維、木材、紙パルプ 3 石油、化学、ゴム 4 家電・土石 5 金属、金属製品 6 一般機械 7 電気機械 8 輸送用機械			9 その他製造業 10 電気業 11 ガス業 12 水道、熱供給業 13 情報通信業 14 連輸業、郵便業 15 卸売業、小売業 16 金融、保険業 17 不動産業、物品販賣業 18 学術研究、専門・技術サービス業 19 宿泊業、飲食サービス業 20 生活関連サービス業、娯楽業 21 サービス業 22 その他		
担当部署			担当者名		
e-mail			TEL		

全員ご回答ください。					
問1. 我が国環境ビジネス全体					
(1) 我が国の環境ビジネス全体の業況		(2) 我が国の発展していると考える環境ビジネス			
最も当たる選択肢の番号に○をつけてください。		別冊の「2. 環境ビジネス分類」から選び、番号(例:A-1)をご記入ください。該当するものがない、わからない場合はブランクとしてください。			
現在	半年先	現在	半年先	現在	半年先
良い	1 1 1	-	-	-	-
さほど良くない	2 2 2	-	-	-	-
悪い	3 3 3	-	-	-	-

全員ご回答ください。						
問2. 貴社のビジネス全体の業況等						
貴社のビジネス全体において、(1)～(7)及び(8)または(9)について最も当たる選択肢の番号に○をつけてください。						
貴社のビジネス全体						
	現在	半年先	10年先	現在	半年先	10年先
(注)「現在」は半年前との、「半年先」と「10年先」は現在との比較でご回答ください。						
(1) 業況						
収益を中心とした、業況についての一般的な判断。						
良い	1	1	1	良い	1	1
さほど良くない	2	2	2	さほど良くない	2	2
悪い	3	3	3	悪い	3	3
(1)-2 業況判断の要因 ※ 問3-1のみ						
「(1)業況」にいて「良い」又は「悪い」を選択した方は、当たる理由を別冊の「3. 理由コード」から最大3つまで選び、ご記入ください。その他の場合は、本調査表右の補足説明欄に具体的にご記入ください。						
(2) 業界の国内需給						
実状に応じて、客入り、引き合い、荷動きなどを考慮した回答を含む。需給のみの判断が困難な場合は、国内外全般における判断可。						
需要超過	1	1	1	需要超過	1	1
ほぼ均衡	2	2	2	ほぼ均衡	2	2
供給超過	3	3	3	供給超過	3	3
(3) 提供価格(注)						
製商品・サービスの販売価格、またはサービスの提供価格についての判断(内ペース)。実状に応じて客単価、単価、受注単価なども考慮し回答をおねがいします。						
上昇	1	1	1	上昇	1	1
もちあい(横ばい)	2	2	2	もちあい(横ばい)	2	2
下落	3	3	3	下落	3	3
(4) 投入する研究開発費(注)						
製商品・サービスの研究・開発に投入する費用(人件費、原材料費、固定資産の減価償却費及び間接費の配賦額等を含む)についての判断。						
増加	1	1	1	増加	1	1
横ばい	2	2	2	横ばい	2	2
減少	3	3	3	減少	3	3
(5) 投入する設備規模(注)						
投入する生産設備、常用設備等の規模(複数の事業分野で利用されている場合は、当該事業で利用されている時間ベース等での判断で可)についての判断。						
拡大	1	1	1	拡大	1	1
横ばい	2	2	2	横ばい	2	2
縮小	3	3	3	縮小	3	3
(6) 投入する人員体制(注)						
投入手人員の体制(複数の事業分野に従事している場合は、当該事業に従事している時間ベース等で可)についての判断。						
拡大	1	1	1	拡大	1	1
横ばい	2	2	2	横ばい	2	2
縮小	3	3	3	縮小	3	3
(7) 資金繰り「現在」のみ						
手元流動性水準、金融機関の貸出態度、資金の回収・支払い条件、社内の配分等を総合した資金繰りについての判断。						
楽である	1			楽である	1	
さほど苦しくない	2			さほど苦しくない	2	
苦しい	3			苦しい	3	
■下記の(8)か(9)のどちらか一方にご回答ください。						
<海外向けの事業を実施している場合>						
(8) 業界の海外需給						
製商品・サービスの海外における需給についての判断。						
需要超過	1	1	1	需要超過	1	1
ほぼ均衡	2	2	2	ほぼ均衡	2	2
供給超過	3	3	3	供給超過	3	3
<海外向けの事業を実施していない場合>						
(9) 海外販路拡大の意向						
製商品・サービスの海外販路拡大(海外での販売を目的とした輸出や海外生産の拡大)の意向についての判断。						
販路拡大意向あり	1	1	1	販路拡大意向あり	1	1
わからぬ/未定	2	2	2	わからぬ/未定	2	2
販路拡大意向なし	3	3	3	販路拡大意向なし	3	3

全員ご回答ください。					
問3. 環境ビジネスの実施の有無					
現在実施している環境ビジネスはありますか。					
1. ある	→ 問3-1へ		2. ない	→ 問4へ	

問3において「1. ある」を選択した方はご回答ください。					
問3-1. 實施している環境ビジネス					
別冊の「2. 環境ビジネス分類」から、貴社で実施している環境ビジネスを最も3つ選び、それについて売上高に占める環境ビジネスの売上の割合(%)と併せてご記入ください。					
また、各環境ビジネスについて問2と同様に(1)～(7)及び(8)または(9)について、最も当たる選択肢の番号に○をつけてください。					
別冊の「2. 環境ビジネス分類」から選んだ環境ビジネス番号(例 A-1)					
環境ビジネス①		環境ビジネス②		環境ビジネス③	
-		-		-	
売上高に占める環境ビジネスの売上の割合。					
% % %					
現在	半年先	10年先	現在	半年先	10年先

全員ご回答ください。					
問4. 今後実施したい環境ビジネス					
(1) 貴社が現在実施していないが、今後行いたいと考えている環境ビジネスはありますか。					
当てはまる選択肢の番号に○をつけてください。					
1. ある	2. ない	3. わからない			
→ 問4.(1)で「1. ある」を選択した方 現在行っているビジネスを除いて実施したい環境ビジネス(最大3つ)を、別冊の「2. 環境ビジネス分類」から選び、番号を(2)にご記入ください。また、実施したい理由を別冊の「3. 理由コード」から最大3つまで選び、番号を(3)にご記入ください。					
(2)		-		-	
(3)					
(4) 貴社が東北6県で新規展開又は拡充をした環境ビジネスはありますか。					
当てはまる選択肢の番号に○をつけてください。また、「1. ある」を選択した方は、現在行なっているビジネスを含め、別冊の「2. 環境ビジネス分類」から選び、番号を(5)にご記入ください。					
1. ある	2. ない	3. わからない			
→ 問4.(4)で「1. ある」を選択した方 東北6県で新規展開又は拡充したい環境ビジネス(最大2つ)を、別冊の「2. 環境ビジネス分類」から選び、番号を(5)にご記入ください。					
(5)		-		-	

ご記入にあたっての注意事項					
1. 選択項目は該当するもの1つ、環境ビジネスは最大3つ選び、回答欄に数字や記号をご記入ください。					
2. 回答は、 (ア)回答日現在の状況について (イ)グループ企業をお持ちの場合の「母体決算の事業範囲を対象にお願いします」。 (ウ)業種変動がある場合は、この要因を除いた実勢ベースでご判断ください。 (エ)業種分類等は別冊を参照ください。					
ご返送、内容・回答記入方法に関するお問合せ先 〒101-0047 東京都千代田区内神田1-13-1 瑞島ビル3階 エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ(株) 「環境経済観測調査」調査事務局 TEL: 03-3518-8440 (受付時間: 9:30～17:30 ※土日・祝日を除く) FAX: 03-3518-8435 E-mail: ecko kansoku2013@mri-a.co.jp					
趣旨・目的に関するお問合せ先 環境省 総合環境政策局 環境計画課 環境経済政策調査室 担当: 清瀬 TEL: 03-3581-3351 (内線: 6290) FAX: 03-3581-9951 E-mail: MASAHIRO_KIYOSE@env.go.jp					

ご回答に関する補足説明等がございましたら以下にご記入ください。					

ご協力ありがとうございました。



政府統計

環境経済観測調査

別冊

本冊子は、調査票記入時の、主業業種分類、環境ビジネス分類および記入例の確認にご使用ください。

平成 25 年 12 月



1. 主業業種一覧

選択番号	業種名	日本標準産業分類の中分類
1	建設業	(06) 総合工事業、(07) 職別工事業（設備工事業を除く）、(08) 設備工事業
2	食料、繊維、木材、紙パルプ	(09) 食料品製造業、(10) 飲料・たばこ・飼料製造業、(11) 繊維工業、(12) 木材・木製品製造業（家具を除く）、(13) 家具・装飾品製造業、(14) パルプ・紙・紙加工品製造業
3	石油、化学、ゴム	(16) 化学工業、(17) 石油製品・石炭製品製造業、(18) プラスチック製品製造業（別掲を除く）、(19) ゴム製品製造業
4	窯業・土石	(21) 窯業・土石製品製造業
5	金属、金属製品	(22) 鉄鋼業、(23) 非鉄金属製造業、(24) 金属製品製造業
6	一般機械	(25) はん用機械器具製造業、(26) 生産用機械器具製造業、(27) 業務用機械器具製造業
7	電気機械	(28) 電子部品・デバイス・電子回路製造業、(29) 電気機械器具製造業、(30) 情報通信機械器具製造業
8	輸送用機械	(31) 輸送用機械器具製造業
9	その他製造業	(15) 印刷・同関連業、(20) なめし革・同製品・毛皮製造業、(32) その他の製造業
10	電気業	(33) 電気業
11	ガス業	(34) ガス業
12	水道、熱供給業	(35) 热供給業、(36) 水道業
13	情報通信業	(37) 通信業、(38) 放送業、(39) 情報サービス業、(40) インターネット付随サービス業、(41) 映像・音声・文字情報制作業
14	運輸業、郵便業	(42) 鉄道業、(43) 道路旅客運送業、(44) 道路貨物運送業、(45) 水運業、(46) 航空運輸業、(47) 倉庫業、(48) 運輸に附帯するサービス業、(49) 郵便業（信書便事業を含む）
15	卸売業、小売業	(50) 各種商品卸売業、(51) 繊維・衣服等卸売業、(52) 飲食料品卸売業、(53) 建築材料、鉱物・金属材料等卸売業、(54) 機械器具卸売業、(55) その他の卸売業、(56) 各種商品小売業、(57) 繊物・衣服・身の回り品小売業、(58) 飲食料品小売業、(59) 機械器具小売業、(60) その他の小売業、(61) 無店舗小売業
16	金融、保険業	(62) 銀行業、(63) 協同組織金融業、(64) 貸金業、クレジットカード業等非預金信用機関、(65) 金融商品取引業、商品先物取引業、(66) 補助的金融業等、(67) 保険業（保険媒介代理業、保険サービス業を含む）
17	不動産業、物品賃貸業	(68) 不動産取引業、(69) 不動産賃貸業・管理業、(70) 物品賃貸業
18	学術研究、専門・技術サービス業	(71) 学術・開発研究機関、(72) 専門サービス業（他に分類されないもの）、(73) 広告業、(74) 技術サービス業（他に分類されないもの）
19	宿泊業、飲食サービス業	(75) 宿泊業、(76) 飲食店、(77) 持ち帰り・配達飲食サービス業
20	生活関連サービス業、娯楽業	(78) 洗濯・理容・美容・浴場業、(79) その他の生活関連サービス業、(80) 娯楽業
21	サービス業	(88) 廃棄物処理業、(89) 自動車整備業、(90) 機械等修理業（別掲を除く）、(91) 職業紹介・労働者派遣業、(92) その他の事業サービス業、(93) 政治・経済・文化団体、(94) 宗教、(95) その他のサービス業
22	その他	(01) 農業、(02) 林業、(03) 漁業（水産養殖業を除く）、(04) 水産養殖業 (05) 鉱業、採石業、砂利採取業、(81) 学校教育、(82) その他の教育、学習支援業、(83) 医療業、(84) 保健衛生、(85) 社会保険・社会福祉・介護事業 (87) 協同組合（他に分類されないもの）、(99) その他

2. 環境ビジネス分類

A. 環境汚染防止（12分類）

装置・資材の製造、建設・機器の据付（6分類）

選択番号	小分類名	具体例
A-1	大気汚染防止用装置・施設	自動車排気ガス浄化触媒／石油精製用触媒（重油脱硫用を含む水素化処理触媒）／集じん装置／重・軽油脱硫装置／排煙脱硫装置／排煙脱硝装置／大気汚染防止装置関連機器／光触媒／DPF 等
A-2	下水、排水処理用装置・施設	水処理薬品／膜／水処理装置／下水道整備事業 等
A-3	土壤、水質浄化用装置・施設（地下水浄化を含む）	土壤浄化（プラント製造）／土壤浄化関連建設工事 等
A-4	騒音、振動防止用装置・施設	防音材（騒音対策装置）／防音工事／防振材（振動対策装置）／防振工事 等
A-5	環境分析、測定、監視用装置	分析装置／関連施設の建設 等
A-6	その他の環境汚染防止製品・装置・施設	以上に含まれない環境汚染防止用装置・資材の製造、施設の建設／環境負荷低減及び省資源型製品の製造（環境対応型塗料・接着剤／エコマーク製品／バイオマスプラスチック／サルファーフリーガソリン・経由／環境対応型建材 等）

サービスの提供（6分類）

選択番号	小分類名	具体例
A-7	下水、排水処理サービス	下水処理(事業) 等
A-8	土壤、水質浄化サービス(地下水浄化を含む)	土壤浄化(事業)／河川・湖沼浄化 等
A-9	環境分析、測定、監視、アセスメント	環境モニタリング／環境アセスメント 等
A-10	環境に関する研究開発・エンジニアリング	クリーン製造プロセス／汚染管理手法の研究開発／エンジニアリング・デザイン／プロジェクト管理／環境管理システム開発 等
A-11	環境教育、環境金融・コンサルティング等	環境教育／環境教育ソフトウェア／エコファンド／環境保険／環境監査／ISO14000 取得コンサル／環境コミュニケーションビジネス／環境計画／法律サービス／NGO活動 等
A-12	その他の環境汚染防止サービス	以上に含まれない環境汚染防止サービス

B. 地球温暖化対策（11分類）

選択番号	小分類名	具体例
B-1	再生可能エネルギー	風力発電／水力発電／地熱発電／太陽熱利用／バイオガス発電／中小水力発電等の装置製造及び新エネ売電ビジネス 等
B-2	太陽光発電システム(関連機器製造)	太陽電池／家庭用ソーラーシステム関連製造業
B-3	太陽光発電システム(据付・メンテナンス等)	太陽電池／家庭用ソーラーシステムの据付・メンテナンス 等
B-4	スマートグリッド	スマートグリッド関連装置の製造及び事業
B-5	省エネルギー自動車	低燃費かつ低排出認定車／アイドリングストップ車／電気自動車／天然ガス自動車／メタノール自動車／ハイブリッド自動車／燃料電池自動車
B-6	省エネルギー電化製品	統一省エネラベル5☆相当のテレビ、エアコン、冷蔵庫／LED等省エネルギー型照明器具等
B-7	高効率給湯器	潜熱回収型給湯器(エコジョーズ)／CO2冷媒ヒートポンプ給湯器(エコキュート)／家庭用燃料電池(エネファーム)／ガスエンジン給湯器(エコワイル)
B-8	省エネルギー・コンサルティング等	ESCO事業／BEMS／HEMS／CDM/JIプロジェクト／排出権取引関連ビジネス 等
B-9	蓄電池	リチウムイオン電池／ニッケル水素電池 等
B-10	省エネルギー建築	次世代省エネルギー住宅／省エネルギービル／断熱材／断熱施工 等
B-11	その他の地球温暖化対策ビジネス	燃料電池／高性能ボイラー／ガスコーチェネ／エコドライブ関連機器／モーダルシフト 等

C. 廃棄物処理・資源有効利用（8分類）

選択番号	小分類名	具体例
C-1	廃棄物処理用装置・施設	最終処分場遮水シート／生ごみ処理装置／廃プラの高炉還元・コークス炉原料化設備／RDF製造装置／RDF発電装置／中間処理装置(破碎・選別・焼却・溶融)／リサイクルプラザ／PCB処理装置／処分場建設／焼却炉解体 等
C-2	一般廃棄物処理	一般廃棄物の収集・運搬／中間処理／リサイクル(熱回収を含む。)／最終処分 等
C-3	産業廃棄物処理	産業廃棄物の収集・運搬／中間処理／リサイクル(熱回収を含む。)／最終処分 等
C-4	リフォーム、リペア	建設リフォーム／機械・家具等修理業／各種商品修理業 等
C-5	リース、レンタル	リース・レンタル(産業機械／輸送機器／通信機器／商業用機械設備／医療用機器／電子計算機・同関連機器／土木・建設機械)／カーシェアリング 等
C-6	中古品	資源回収／中古品流通／リターナブルびんの生産・リユース
C-7	リサイクル素材	再資源の商品化(廃プラスチック製品製造業、鉄スクラップ加工処理業、非鉄金属第二次精錬・精製業 等)／PETボトル再生纖維化および利用／生ごみ肥料化／再生紙／エコセメント／動脈産業での廃棄物受入ビジネス(鉄鋼業、セメント製造業、紙製造業 等) 等
C-8	その他の資源有効利用	100年住宅 等

D. 自然環境保全（3分類）

選択番号	小分類名	具体例
D-1	水資源利用	雨水利用設備／雨水浸透工事(貯留)／中水道配管工事／下水処理水供給 等
D-2	持続可能な農林漁業、緑化	林業／国産材使用／環境保全型農業／緑化／養殖／稚魚放流 等
D-3	その他の自然環境保全	エコツーリズム(自然観賞型観光)／山崩れ等の山地灾害対策／津波対策 等

3. 理由コード

	選択番号	問3-1(1)-2 問3-1(1)で「良い」を選択した場合の理由 問4(3) 問4(2)で「実施したい環境ビジネス」の理由	選択番号	問3-1(1)-2 問3-1(1)で「悪い」を選択した場合の理由
外的要因	1	産業界全体の景気が良いため	51	産業界全体の景気が悪いため
	2	補助金・助成金などの支援策がある又は見込まれるため	52	補助金・助成金などの支援策がない又は見込まれないため
	3	海外市場の発展が見込まれるため	53	海外市場の発展が見込まれないため
	4	国内市場の発展が見込まれるため	54	国内市場の発展が見込まれないため
	5	規制緩和があるため	55	規制が厳しいため
	6	取引先(顧客)からの受注が見込まれるため	56	取引先(顧客)からの受注が見込まれないため
	7	新規参入・事業拡大し易いため	57	新規参入・事業拡大し難いため
	8	FIT(固定価格買取制度)があるため	58	国内企業との競争激化が見込まれるため
内的要因	11	自社の技術・人材が活かせるため	61	自社の技術・人材が活かせないため
	12	収益性が高いため	62	収益性が低いため
	13	資金繰りがし易いため	63	資金繰りが厳しいため
その他	21	自社イメージの向上のため		
	22	社会貢献のため		
	23	自社の雇用確保のため		
	29	その他	79	その他

4. 記入例

環境省「平成25年12月環境経済観測調査」

政府統計

本調査は、統計法（平成19年法律第53号）に基づいて国が行う統計調査です。同様の規定により、回答内容については機密を保護するとともに、統計調査以外の目的に使用することはできません。本調査の回答結果については統計的に分析・処理し、個人別ご回答や企業・団体名等が公開されることはありません。調査票の返送・回答内容の漏洩等の業務についてエム・アル・アリーサーアジエンス株式会社に業務委託しますが、同社との間で必要な契約を締結し、個人情報を含めた情報の適切な管理を行います。

インターネット（オンライン回答または電子ファイルのメール送付）での回答も受け付けております。詳細は「環境経済情報ポータルサイト」をご覧下さい。
http://www.env.go.jp/policy/keizai_portal

修正がある場合、赤字等でわかるように修正して下さい。

調査票番号
100-2975-330-6018
さいたま市中央区新都心11-2
環境株式会社
産業

資金金額 1000百万円 **主業業種コード** 1
 前回回答もしくは総務省データベースより転載、
 今回回答の参考としてください。
 ※ 先方に修正がございましたら、赤字で訂正ください。

回答日 6 8 **資金金額** 1,300 (百万円)
売上高 (もしくは年次収益) 500 (百万円)
 (年次収益の売上高を記入ください)
主業業種 別冊の「1. 主業業種一覧」から選択の上、下記の番号番号に○を付けてください。

1. 主業業種一覧から選択し、番号に○で囲んで下さい。

2. 環境ビジネス分類から選択し、番号を記入下さい。

環境ビジネスを実施していない企業の皆様もご回答下さい。

3. お問い合わせ

問1. 我が國の環境ビジネス全体
 (1) 我が國の環境ビジネス全体の業況
 最も当たる選択肢の番号に○を付けて下さい。

	現在	半年先	10年先	現在	半年先	10年先
良い	○	1	1	A	-1	B
さほど良くない	2	2	2	-	2	C
悪い	3	3	3	○	1	-

(8)と(9)は、海外向け事業の実施の有無によって、どちらかにご回答下さい。

問2. 環境ビジネス全体の業況等
 貴社のビジネス全体において、(1)～(7)及び(8)または(9)について最も当たる選択肢の番号に○を付けてください。

貴社のビジネス全体

	現在	半年先	10年先	現在	半年先	10年先	現在	半年先	10年先
良い	○	○	1	1	1	1	1	1	1
さほど良くない	2	2	2	2	2	2	2	2	2
悪い	3	3	3	3	3	3	3	3	3

(注)「現在」は半年前の、「半年先」と「10年先」は現在との比較でご回答ください。

(1) 業況
 収益を中心とした、業況についての全般的な判断。

(1)-2 案況判断の要因 **※ 間3-1のみ**
 「(1) 案況において「良い」と「悪い」を選択した方は、当てはまる理由を別冊の「3. 理由コード」から最大3つまで選び、ご記入ください。その他の場合は、本調査表下の補足説明欄に具体的に記入ください。

(2) 業界の国内需給
 実状に応じて、客人入りきり合い、荷動きなどを考慮した回答を含む。業界の内需の判断が困難な場合は、国内外一般の判断基準による回答。

(3) 提供価格(注)
 製品やサービスの販売価格、またはサービスの提供価格についての判断。内需・外需、実状に応じて客単価、坪単価、受注単価などと尋ねた回答を含む。

(4) 投入する研究開発費(注)
 製品やサービスの開発・開発に投入する費用(人件費、原材料費、固定費)の現状価値(或は直接の記載額等を含む)についての判断。

(5) 投入する設備規模(注)
 投入する設備、運営用設備等の規模(従事の事業分野別で利用されている場合)、当該事業で利用されている時間ペース等での判断を可についての判断。

(6) 投入する人材体制(注)
 投入する人員の体制(従事の事業分野別に従事している場合は、当該事業に従事している時間ペース等)についての判断。

(7) 資金織り「現在」のみ
 手元余資・生地、金融機関の貸出態度、資金の回収・支払い条件、社内外での分配等を組合せた資金織りについての判断。

問3. 環境ビジネスの実施の有無
 現在実施している環境ビジネスはありますか。
 当てはまる選択肢の番号に○を付けてください。

① ある	→ 間3-1へ
② ない	→ 間4へ

問3において「ある」を選択した方はご回答ください。

問3-1. 実施している環境ビジネス

別冊の「2. 環境ビジネス分類」から選んだ環境ビジネス番号を最大3つ選び、それをぞついて売上高に占める環境ビジネスの売上の割合(%)を併せてご記入ください。

また、各環境ビジネスについて(1)～(7)及び(8)または(9)について、最も当たる選択肢の番号に○をつけてください。

環境ビジネス

①	環境ビジネス	②	環境ビジネス	③	環境ビジネス
A	-1	C	-3	-	-

売上高に占める環境ビジネスの売上の割合。

35	%	10	%	5	%
----	---	----	---	---	---

問3-2. 環境ビジネス分類

別冊の「2. 環境ビジネス分類」から選んだ環境ビジネス番号を最大3つ選び、それをぞついて売上高に占める環境ビジネスの売上の割合(%)を併せてご記入ください。

また、各環境ビジネスについて(1)～(7)及び(8)または(9)について、最も当たる選択肢の番号に○をつけてください。

環境ビジネス

①	環境ビジネス	②	環境ビジネス	③	環境ビジネス
A	-2	A	-3	C	-3

問3-3. 環境ビジネス分類

別冊の「2. 環境ビジネス分類」から選んだ環境ビジネス番号を最大3つ選び、それをぞついて売上高に占める環境ビジネスの売上の割合(%)を併せてご記入ください。

また、各環境ビジネスについて(1)～(7)及び(8)または(9)について、最も当たる選択肢の番号に○をつけてください。

環境ビジネス

①	環境ビジネス	②	環境ビジネス	③	環境ビジネス
I	3	11	1	12	3

問4. 今後実施したい環境ビジネス

(1) 貴社が環境ビジネスをしていないが、今後行ないと考えている環境ビジネスはありますか。
 当てはまる選択肢の番号に○をつけてください。

① ある	② ない	③ わからない
------	------	---------

(2) A - 2 A - 3 C - 3

(3) I 3 11 1 12 3 5 22

(4) 貴社が東北地方で新規展開又は拡大をしたい環境ビジネスはありませんか。
 当てはまる選択肢の番号に○をつけてください。
 また、あるとお答えの方は、現在行なっているビジネスを含め、別冊の「2. 環境ビジネス分類」から選んだ環境ビジネス番号を記入ください。

① ある	② ない	③ わからない
------	------	---------

(5) A - 1 A - 2 -

ご協力頂きますようお願い申し上げます。
[提出期限 平成25年12月20日]